

I 神の先行する恵み

＝神は私達を愛して、①私たちに命を与え、天と万物を造られた。

②御子イエスを救い主として与え、私達を救い、
罪の赦しと永遠の命を与えられている。

II その神から私たちに与えられた二大使命

1. すべての人に主を伝える「世界宣教命令と世界中に主の教会を建て上げる」。

「全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい」マルコ16：15。

「あなたがたは行って（世界宣教、関係作り伝道）、あらゆる国の人々を弟子としなさい（主の弟子の集まりである主の教会を建て上げなさい）。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます」マタイ28：19、20。

この命令の為に、私達を神は用いられるが、三位一体の神も、共に働き続けておられる。それがなければ誰も救われない。私達の救いは、神と、伝えてくれた人々の共同の業！

2. 「生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配（管理）せよ」創世記1：28。

①神は、万物を造られた偉大な神。

神は、万物を造りっぱなしではなく、万物を保持、管理しておられる。そうでなければ、万物は、ばらばらになり、保持されない。今日まで、万物が保持されているのは、神が、創造者だけではなく、保持者だから。

御子は「万物を保っておられます」ヘブル1：3

②神は、万物を保持、管理する使命を人間にも与えられた

＝それが、私たちの仕事（子育て、家事、奉仕すべて）、職業。

漁業、林業、農業、工業、商業、医療、福祉、教育、金融業、国の仕事、色々な国の言葉を教える（世界中の人々が、コミュニケーションをはかり、協力し合って、世界管理の使命を果たす）、自然環境保護他、すべてはつながっている。互いに補い合って、世界管理の使命を果たしている。

③クリスチャンになると、初めて、創世記1：26-28から、仕事、職業の意味が分かる。

この御言葉が土台となっている。第1の使命＝「世界宣教、教会の建て上げ」と同じように、神は私達にだけ、世界管理を任せられたのではなく、神は今も世界管理の業をし続けておられる

⇒「わたしの父は今に至るまで働いておられます。それでわたし（主イエス）も働いているのです」

ヨハネ5：17。

そして私達にも、その使命を与えておられる。世界管理の仕事は、神と私たちの共同の業。仕事、職業は、神の世界管理のお仕事に参加させていただく光栄な事。

仕事、職業の聖書的な意味が分かると、聖なるやりがいと与えられる。

仕事は、人間の墮落前から、神が人に与えられた使命

＝「主は人を連れて来て、エデンの園に置き、そこを耕させ、また守らせた」創世記2：15

④「さあ、人をわれわれ（父・子・聖霊の三位一体の神）のかたち（御性質、愛と聖、正しさ）として、われわれの似姿（互いに愛し合う神の似姿、創造する能力）に造ろう。こうして彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地の上を這うすべてのものを支配するようにしよう」創世記1：26。

仕事、職業は、私たちが、三位一体の神のご性質（互いに愛し合う、愛と誠実さ、創造性）に似せて造られている事を示すもの。

私達は、神が与えられる仕事、奉仕、職業を通して、成長し、神のご性質（互いに愛する、誠実さ、創造性、芸術、工夫して何かを作り出す等）に似せられて行く大切な意義あるもの。

⑤人間の世界では、仕事、職業、その地位、失業中、病、障害等により、優劣や、差別があるが、神の前で

は、一切の差別がない。

「わたしの目には、あなた（の仕事、職業ではなく、あなた自身）は高価で尊い。わたしはあなた（あなたの地位、職業ではなく、あなた自身の存在）を愛している」イザヤ43：4。

「あなたがたは、私たちの主、栄光のイエス・キリストへの信仰を持っていながら、人をえこひいきすることがあってはなりません」ヤコブ2：1。

神は、私達の価値を仕事や職業の地位で計られない。素晴らしい愛の方！

⑥仕事、教会の奉仕、職業で最も大切な事は、「今、与えられている仕事、奉仕、職業は、神が私に与えられた使命である」という自覚である。

偶然、意味のないものではなく、神が、

「地の塩（世の悪、罪の腐れを防ぎ、世を清める使命）…世の光（仕事、奉仕を通して神の栄光を現わす使命）」（マタイ5：13, 14）

として、遣わされている仕事場、奉仕の場、職場である。

※但し、無理をし過ぎて、心の病になる事を神は喜ばれない。倒れる前に、祈りつつ専門機関に相談をしたい。病や退職になる時、多くの人々の為に祈る奉仕がある。

⑦仕事、奉仕、職場は、すべてがうまく行く場ではなく神の訓練の場。神は共におられる。

Ⅲ 仕事、職業を決める時、助けになる事

1. 祈り。

「私を、相応しい仕事、職業に導いて下さい」と真剣に祈りたい。

2. 神は、私達を母の胎にいる時から大切に造られた。

「あなたこそ 私の内臓を造り

母の胎の内で私を組み立てられた方です。

私は感謝します。

あなたは私に奇しいことをなさせて

恐ろしいほどです。

私のたましいは それをよく知っています」詩篇139：13, 14。

神は、私たち一人一人を「オンリー・ワン」＝唯一、ユニークな大切な存在、その人にしかない、特徴、能力を与えておられる。

生まれて、小さい時から、好きだった事、やりがいを感じた事、色々な経験は、神が、あなたに与えられた賜物の可能性がある。

人生を振り返って見よう。祈り尋ねよう。

「神が私に与えられた賜物はなんですか？それを生かして神の栄光と人の役に立つ仕事、職業は何ですか？」と。※証し。

3. ①祈り ②聖書 ③環境 ④人からの助言等…は、仕事や職業を決める時の判断の助けになる。

4. 「安息日（神にを喜び、感謝し、礼拝する日）を覚えて、これを聖なるものとせよ。

六日間働いて、あなたのすべての仕事をせよ。

七日目は、あなたの神、主の安息（主を礼拝し、安息、霊的な力を得る）である」

出エジプト20：8-10。

礼拝を守る仕事、職場を祈り求めよう。

福祉関係等、どうしても礼拝の日が仕事の場合は、補おう

＝仕事に出かける前に、祈り御言葉を読み、小さな礼拝を自分で神に奉げる。または、家に戻って来てから、ホームページで礼拝説教を聞き、礼拝をする等。

祈り：私達が、神の溢れる恵みを感謝し、神を礼拝し、霊的な力を得て、主が遣わされる職場、学校、家庭で神の栄光を現わすことが出来ますように！